

南山大学外国語学部英米学科主催
第4回英語オーラルインタープリテーションフェスティバル
実施要領

■主 催

南山大学外国語学部英米学科

■後 援

愛知県教育委員会, 名古屋市教育委員会,
JACET オーラルコミュニケーション研究会

■協 賛

株式会社紀伊國屋書店 (予定)

■開催趣旨

1995年に旧南山短期大学は高校生を対象とした初回英語オーラルインタープリテーション大会を開催しました。以来この分野では全国唯一の大会として東海3県をはじめ、全国の中学生・高校生そして大学生も参加する大会となりました。2018年度より本大会は、南山大学外国語学部英米学科の主催となったことを機に、コンテスト（順位を競う大会）ではなく、フェスティバル（合同発表会）として再出発しました。本フェスティバルが参加生徒や学生のみならず、指導者にとっても英語表現教育の場となることをこれまで以上に願って止みません。

■日 時

2021年12月18日（土）13時開演（12時30分開場）、15時半頃終了予定

■開催場所

愛知県名古屋市昭和区山里町1-8 南山大学 G30 教室

アクセス <https://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>

■重要（オンライン開催の可能性について）

この要領は本学に実際に集うライブ発表形式による実施を前提にしたものです。なお今回は、遠隔地から参加の場合に限り、ごく少数だけオンライン参加を認める予定です。ご希望の場合は応募第1段階でお問合せください。

今後の新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、Zoom 利用による「オンライン開催」となる可能性があります。予めご了承ください。「オンライン開催」の最終判断は11月中旬を予定しています。その後も、状況急変によりさらなる変更があり得ることをご留意願います。

■発表形式

英語で書かれた既存の作品を1グループ2名以上の発表者により、5分以内で読み上げる団体発表形式です。1学校1団体としますが、応募第1段階の時点で発表枠にゆとりがある場合は、1学校複数団体を認めることがあります。検討される場合は、応募第1段階でご希望をお知らせください。

■応募資格

中学生，高校生，大学生および高専生など。また中・高・大混合編成や複数学校編成も可能です。国籍・海外体験の有無は問いません（資格に関して質問がある場合はご相談ください）。

■講 評

本フェスティバル（合同発表会）では発表者間の優劣順位の決定はいたしません。発表後に講評担当教授よりコメントやアドバイスを差し上げます。参加者の外国語学習および指導の参考にしていただけましたら幸いです。

■応募期間・方法

第1段階 2021年9月20日（月）～9月30日（木）

- ・メールにより参加希望（学校名，参加予定者数，担当者名，返信先アドレス，オンライン参加希望の有無）のみをお知らせください。応募は先着順ではありません。

第2段階 10月11日（月）～10月22日（金）

- ・応募シート（参加決定校には後日メールで送付予定）に必要事項を記入し，後段「お問合せ（p.5）」宛先にメールでお送りください。

オンライン開催の場合 第3段階

- ・12月1(水)～8日(水)頃までの間に，各校で収録した録画をYouTubeに「限定公開」でアップしてください。
- ・12月9日(木)頃，各校の限定公開済みURLを集約して送信します。
- ・大会当日までに，他校の発表を観てください。
- ・詳細については，オンライン開催決定の時点で各校にお知らせします。

※11月中旬に会場開催を決定した場合でも，急遽オンライン開催に変更となる場合に備えての準備もお願いいたします。

■応募に際しての留意点とお願い

1. フェスティバル全体の参加可能組数は、最大 20 組の予定です。予定組数に満たない場合は、各校に複数組参加の希望を募ることがあります。
2. 参加者による創作・編集・翻訳などの作品は不可です。原著の縮約版などは可能ですが、必ずその旨をお知らせください。作品選びにお困りの場合は、何なりとお問合わせください。
3. 制限時間 5 分を超える発表は全体進行に影響が出ます。皆様のご理解とご配慮をお願いします。
4. 発表中の様子や参加学校名は、本学入試広報関係資料や公式ホームページ、公式 Facebook、または報道機関により報道される可能性がありますので予めご了承ください。
5. 主催者により新型コロナウイルス感染防止には万全を期しますが、各校におかれましても練習中など対策を十分に講じていただきますようお願いいたします。
6. オーラルインタープリテーション (OI) については、以下「参考：OI とは何か」をご参照ください。

■参考：OI とは何か

【OI とは何か】

発表者は筆者が書いた文の伝える内容を理解しそのメッセージを解釈します。その後で筆者になり代わって文を読み伝える表現音読です。必ずしも暗記暗唱は求めません。発表者は自分の声だけでなく、ジェスチャーや表情、またその場で身体の動きも活用して、聴衆に向かって語りかけるものです。一般的な演劇とは違い、舞台上で発表者同士が顔を見て話すのではなく、前方の聴衆を見て話します。原則として、衣装や大道具・小道具、照明、効果音などは使用しません。

【練習上のアドバイス】

1. OI は聴衆と発表者のコミュニケーション活動なので、準備に際しては原文解釈に重点を置き、じっくりと時間をかけると良いでしょう。作品に込められたメッセージは何か、言外の意味は何か、さらに作品のクライマックスはど

- こかなどについて、しっかりと発表者間で話し合い解釈を統一します。
2. 表現音読の際には、声の大小、読む速さ、声の高低や質、感情表現に注意します。前に述べたメッセージを伝えるためには、確かなプロソディー（発音・抑揚・リズムなど音声面）の練習は欠かせません。なお、本番でマイクは使用しません。
 3. 非言語表現とされるジェスチャー、表情や顔の向き、そして視線の方向は音声以上に効果的なことがあります。ただし、話の内容に呼応した非言語表現は必要ですが、それがふさわしいものかどうかは吟味します。
 4. 暗記の再現を目指す発表より、音読しながら聴衆に伝えるという姿勢が好ましいでしょう。聴衆は台本を持ちませんから、発表者の立つ位置（ステージの前方か後方か、上手か下手か、また隣には誰がいるのかなど）を工夫することで、文字を見ない聴衆の理解を促進します。

■ご案内

出場の有無にかかわらず、担当者がオンラインにて OI 活動について指導助言をさせていただきます。ご希望の場合はお気軽にお問合せください。お引き受けできない場合もありますので、予めご了承ください。

■お問合せ

外国語学部英米学科合同研究室

電話：052-832-3111 内線 3630（平日 10 時～17 時）

E メール：dpt-eibei@nanzan-u.ac.jp